

# このIT活用が学力を伸ばす

## —一斉授業でのシンプルな活用を中心に—

岩手県水沢市立水沢小学校 教諭 佐藤 正寿

キーワード：一斉授業、シンプルなIT活用、部分活用、目的の明確化

### 1. 今必要な一斉授業でのシンプルなIT活用

日常の授業の多くは普通教室で行われている。しかも一斉授業の形態が基本である。そこでの目的はその学年で必要な学力形成であり、IT活用の視点もその点が重視されるべきであろう。

「IT活用の実践」と言えば、いまだに「特別に準備をして一斉にコンピュータを活用する授業」「ITスキルの高い教師が行うもの」といったイメージが一部にある。しかし、この視点からすれば「日常の一斉授業で、子どもたちに学力を身につけるIT活用」が今、多くの教師に必要なことと思われる。

そのキーワードとなるのが「シンプルなIT活用」である。ここで言う「シンプル」は二つの意味がある。一つは準備が簡単であること。実物投影機で教科書を拡大して提示したり、デジカメで撮影した画像を一斉に示したりというように簡単なITスキルがあればできるものである。もう一つは部分活用であるということ。1時間丸ごとITを活用するのではなく、必要な時のみの活用である。

ここでは一斉授業でのシンプルなIT活用事例を取り上げ、それらがどのような力をつけるのに役立っているのか考えていく。

### 2. 一斉授業でのシンプルなIT活用の具体例

#### (1) 思考を促すIT活用

##### ① 教科書やノートを拡大し、考えを共有する

シンプルなIT活用で、最も効果的なのが教科書やノートを拡大することである。

たとえば、スクリーンに教科書の「鎌倉時代の武家屋敷」の絵を写す。わかることを子どもたちがノートに書いた後、その絵を使って「門の前に人がいます。敵の見張りをしているのだと思います」といった発表をする。指示棒で指したり、マーキングをしたりする子もいる。

このように拡大した資料の効果は抜群である。「全員が共通してはっきりと視聴できる資料」があるということで、子どもたちの集中力が違うし、当然理解度もアップする。もし拡大資料がなかったら、「右上のところに3人の武士がいて・・・」と子どもが発表をしても、聞き手の子どもたちは迷うに違いない。

これは教科書だけではない。ノートの場合も同様である。たとえば、算数の問題について、ノートに書いた自分の解き方や考えを実物投影機で拡大して提示する。ノートに書かれている情報量が多いものほど、その効果は大きい。

友達が行う活動が拡大提示によってはっきりとわかることのメリットは大きい。その活動について質問や意見が付け加えをしたりすることが容易になる。そこからお互いの考えが深まっていく。

##### ② 作品制作の発想のヒントとして活用する

図工の場合、子どもたちが作品を制作する時に視聴覚な教材が発想のヒントとなることが多い。

たとえば、版画制作でバスケットボールでシュート場面を描く時、子どもたちの視点は横から見たものになりがちである。それを「違った視点からデジカメで撮影してみましょう」と助言する。すると、「ゴールのそばから見たシュート場面」「下から見たシュート場面」というように、違った角度から見るようになる。その写真をもとに子どもたちは新たな視点から下絵を描く。

また、お面作りでシーサーに似た顔のお面を作りたいと考えた。しかし、子どもたちの発想がなかなか広がらない。そこで、Google (<http://www.google.co.jp/>) の画像検索サイトで「シーサー」を検索し、子どもたちに提示をする。そこには様々な形のシーサーが出ている。一つ一つの特徴を確認し、それをヒントにシーサーを描く。すると様々な表現が出てくるようになる。

これらはIT活用の視聴覚資料が子どもたちの発想を深めることの役立った例である。

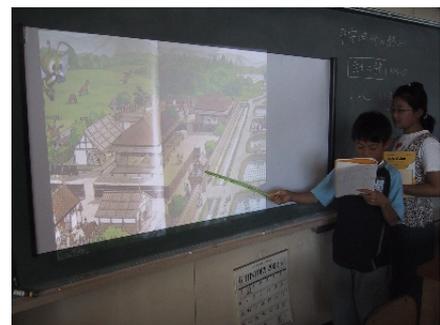


写真1 教科書を拡大した資料をもとに話し合う

## (2) 表現ツールとしてのIT活用

### ① デジカメを用いて効果的に説明をする

一斉授業での発表場面で、何かしらの実物や資料があると子どもたちの表現のしかたは変わってくる。説明が具体的に、聞き手にとっても理解しやすくなる。特にIT活用で効果的なのが「デジカメを用いて保存できないものを表現する」ということである。たとえば、調理実習の時に野菜サラダを作った時には一人一人が作った作品をデジカメで撮影しておけばよい。次の時間に、その写真をもとに一人一人が発表できる。また、理科実験の時には、特徴的な瞬間（たとえば、ものが燃える瞬間）を子どもたちが撮影しておけば、結果の発表資料の一つとして提示できる。

### ② シンプルなシートのプレゼン活動をする

コミュニケーション能力を育てるという点で、プレゼンソフトを用いて発表をさせるのは意義がある。しかし、吟味したシートを作るのには時間がかかる。そこで私が多用しているのは「写真のみのシート」「手書きシート」である。ちなみに「手書きシート」とは、B5版の紙にマジックで伝えたいことを簡条書きにしてスキャンしたものである。このようなシートであれば、パソコンのスキルが不足している子どもたちでも簡単にできる。

プレゼン指導をする点で大事なのは、「どのようにしたら効果的に自分の考えを伝えることができるか」「聞き手を意識した表現のしかたはどうあればいいか」といったことである。シート作りに力を注いで実際の表現力が不足していたのでは本末転倒である。

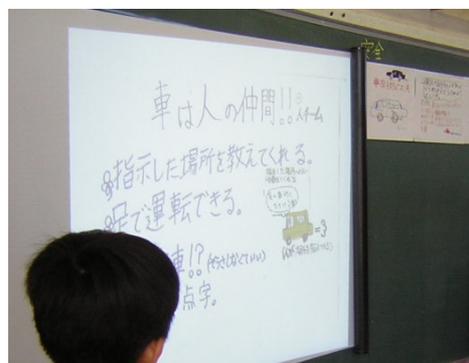


写真2 手書きのプレゼンシート

## (3) 知識を定着させるIT活用

### ① 視覚的な資料の提示で確認

知識は聴覚だけではなく視覚と一緒にになると定着する割合が高くなる。そこで学習の時に、ワンポイントで確認のために使うと効果的である。たとえば、授業の導入に前時の板書（デジカメで撮影しておいたもの）をプロジェクタで写し、前時を想起させる。授業のまとめで、本時に関連する写真を提示し確認問題を出す。ともに時間からすれば2～3分程度のものである。一度学習したものをこのような形で提示することによって知識は定着する。

### ② ドリルやワークで活用する

市販の漢字ドリルは力を高めるために役立っている。より効果的に活用するために、プロジェクタで拡大して提示し、漢字の間違いやすい所や筆順、用例等を説明する。同じ教材なので子どもたちの理解も進む。また、写真の自作ワークも効果的である。たとえば、チョウの写真の足の部分を隠し提示する。足が何本でどこから出ているか子どもたちは考える。そのようにして得た知識は定着する。

## (4) 学習技能を高めるIT活用

### ① モデルの提示

子どもたちの学習技能を高めるには「モデル」が重要な役割を果たす。たとえば、学習のまとめで個人新聞を作る場合、モデルとなる作品が一つあるだけできばえは違う。「見出し」「レイアウト」といったように、具体的な実例をもとに解説することによって、子どもたちも「こう書けばいいんだ」とイメージ化ができるのである。これらは技能を必要とする教科では特に重要である。たとえば、体育の跳び箱運動で、体育館にパソコンを持ち込み、デジタルコンテンツの動画モデルをいつでも見られるようにしておく。技のポイントが確認でき、自分の跳び方で不足している点を考えることができる。



写真3 個人新聞のポイントを確認

## 3. 効果と留意点

日常の一斉授業の中で行われているIT活用について述べた。このようなIT活用は、学習の理解度を高めるだけではなく、子どもたちの学習技能や知識の獲得、思考力・表現力の深まりに効果をもたらしていると思われる。そして、それらはトータルとして子どもたちの学習意欲を高めている。

ただ、留意している点がある。それは『はじめにIT活用ありき』ではないということである。基本的な授業の流れがあり、その中でIT活用が効果的だと考えられた時に使うのである。当然のことながら、そこではITの活用目的が明確である。逆に言えば活用する必要がないという時にはITは用いない。いわば、「効果的な活用はするが、不要な時にはこだわらない」ということが基本的なスタンスである。これがIT活用による学力向上で大切だと考える。